

高度先進医療支援センターニュース

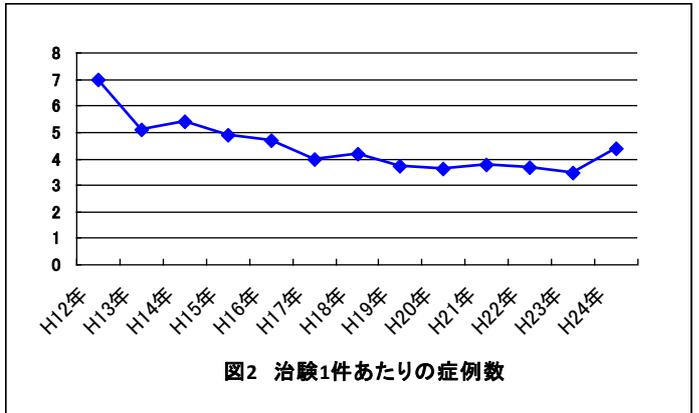
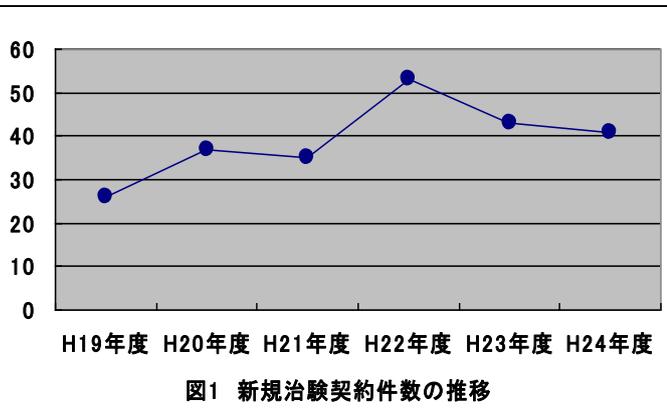
第101号 2012年10月22日

長く続いた残暑も突然終わりを告げ、早くも冬の足音が聞こえる季節となりました。今回は「本院における新規治験の受託状況について」等、記載しております。

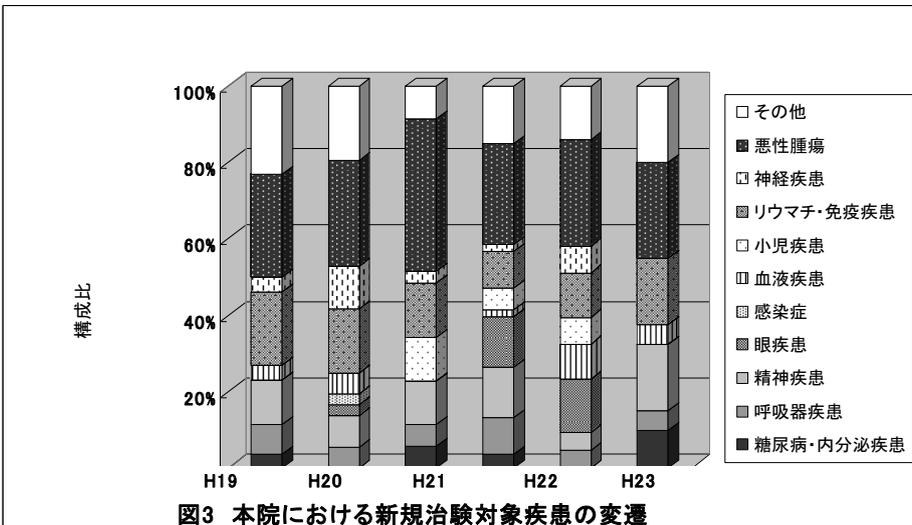
●本院における新規治験の受託状況について●

近年、本院の受託治験についてもアンメット・メディカル・ニーズ領域の医薬品が増加傾向にあることはセンターニュース第86号にてご紹介させていただきました。一方、本院ではこの1, 2年の間に診療科の再編や多数の診療科長の交代等の院内の体制変更が行われております。また、今年度より完全出来高払いの導入等の治験経費算定方法の見直しも行うなど治験実施体制についても変更を行っております。このような院内体制や治験実施体制の変更は本院の治験の受託に大きな影響を与える可能性があります。今回、院内体制や治験実施体制の変更が本院の治験受託状況や傾向に変化を与えたのか調査しましたのでご紹介いたします。

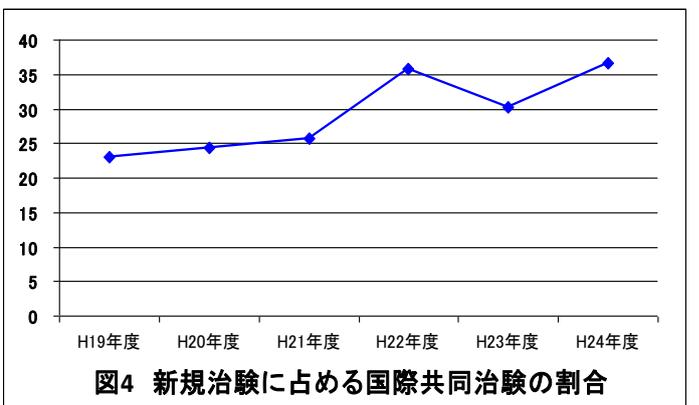
治験の受託件数はこの数年、増加傾向にあり、平成23年度、24年度(9月末まで)についても同様の傾向を示しております(図1)。また、治験1件あたりの症例数はこれまで約十数年の間、低減傾向を示していましたが、平成24年度は久々に増加傾向を示し、治験1件あたりの症例数が4例を超える状況になっております。これは治験経費算定方法の見直しが寄与していると推察されます(図2)。



一方、本院における新規治験対象疾患については平成23年度、24年度はそれ以前と比較して大きな傾向の変化は観察されませんでした。一方、「その他」に分類される「皮膚疾患」が増加傾向を示しています(図3)。また、国際共同治験については平成23年度、24年度も平成22年度とほぼ同程度の約3割を占めており、国際共同治験が一般的に行われるようになったことが覗えます(図4)。



これらのデータから本院における治験の受託傾向は院内体制変更の影響はみられませんでした。一方、治験実施体制の変更は受託件数や症例数に良い影響を与えていると推察されます。



●事務局からのお知らせ●

■IRB開催予定日■

11月27日(火) 15:00 より

■会議室状況■

10月中のご予約は、ほぼ一杯になっております。

翌月11月からのご予約も承っておりますので、SDV・アポイント等のお申込みの際には、お早めにお問い合わせくださいようお願いいたします。



ホームページ: <http://trctca.huhp.hokudai.ac.jp/index.php>
お問い合わせ・配信変更等: 電話 011-706-7061

